



新たな土地で育む農業。 家族とともに、長く続けられる形を

堀田農園 堀田 丹奈さん

ほった・にな ● 愛知県の観光農園勤務時に出会った夫と結婚し、独立就農を希望していた夫とともに2011年に富加町へ移住、翌年より営農開始。2017年岐阜県女性農業経営アドバイザーに認定、2018年第1子を出産。GLAMAいきいきネットワークの活動にも積極的に取り組んでいる。

【生産物】 イチゴ
【営農地】 加茂郡富加町滝田、美濃加茂市蜂屋町
【農地面積】 25a
【営農開始年】 2012年～

堀田さんは、夫婦で愛知県から加茂郡富加町へ移住してイチゴ農園を営んでいます。結婚後、新規就農を考えていた折、サポートの手厚さや人々のあたたかさに触れて富加町への移住を選択。さまざまな農業グループの集まりにも参加しながら、人や地域とのつながりを築いてきました。

今では就農後に生まれたお子さんを加えた3人家族に。子育てと農作業に追われつつ、「ライフステージに合わせた農業を続けていきたい」と話します。

独立就農を目指し 富加町へ夫婦で移住

愛知県出身で、蒲郡市の観光農園で働いていた堀田さん。その農園では季節ごとにさまざまな果物等を栽培しており、そこでイチゴの栽培を担当していたのが現在の夫です。二人は違う部署で働いており、すれ違ったら挨拶する程度の中でしたが、社内のすすめもあって何度か会うようになり、気が合い結婚。夫は長く生産に携わっており、いつかは独立就農をしたい、と当初から堀田さんに話していたそう。お互いに実家が農家ではないため、独立就農となると、土地や設備もゼロからのスタートになります。新規就農のための支援が手厚い地域を選んだ方が良さだろうと、全国から探した結果、岐阜県にたどりつきました。

始めは全農岐阜が運営する新規就農いちご研修所に入ろうとするも定員オーバーで通らず。困っているときに、高齢で離農し、使われなくなったビニールハウスが富加町にあると県の普及員から紹介を受けます。やっと就農ができる見通しが立ち、2011年5月に富加町へ移住しました。

農家の集まりに参加 生まれたつながりに感謝

最初の栽培面積は25アールで、農協出荷がメイン。新天地での二人の挑戦を、周囲の先輩農家の人々が支えてくれました。富加町内の農

業関係者でつくる「愛農会」に夫が入ったことで、地域の輪にも徐々に溶け込むことができました。国の新規就農者向けの補助金を活用したこともあり、行政とのつながりも生まれました。

2017年には岐阜県女性農業経営アドバイザーに就任。研修などの集まりに参加する機会が増え、「外に目を向けて取り組んでいる方が多くて、視野が広がりました。自分もやりたいことをやっていこう、という力をもらえます」と堀田さん。

2018年には念願の第1子が誕生。アドバイザーの研修会に赤ちゃんを抱えて行ったこともあります。同年代の子どもを持ち、子育てと農業の両方について話すことができる仲間もできました。最近では、肩書や年齢、地域に関係なく県内の女性農業者がゆるくつながる「ゆるベジ研究所 ミルクベッジ」にも参加。研修会の他、日ごろからオープンチャットなどで農業のことを会話することもあり、「つながりって大事だなと。いろいろな方と知り合えたことは、富加町に移住して良かったことの一つ」とかみしめます。



家族とともに 無理のない農業経営を

常々意識していることは、気候変動や資材高騰の中で経費を抑えながら、おいしいイチゴを作る。おいしさを大事にしようと、実が赤くなるのを待って収穫し、近隣の道の駅や直売所、産直市場などにのみ出荷しています。

収穫に追われる繁忙期にはスタッフを入れています。それでも仕事に家事、子育てまでこなすのは大変。すべて夫婦の協力が。合間には交代で休みを取って各自の趣味を楽しむ時間も作っています。作業が落ち着く6月には、家族旅行にも出かけます。

美濃加茂市にもハウスがあり、開業当初より面積を広げていますが、今は子育て真っ盛り。無理のない範囲で続けられるようにと、規模を少し抑えています。「家族のライフステージに合わせて、一緒に長く続けていけたら。今は面積は変えずに収穫量を上げていきたいです」。

各種サポートを活用して 快適な移住・定住を実現

どちらも県外出身の堀田さん夫婦。当初から独立就農を目的としていたため、移住先に大きなこだわりはなかったといいますが、たどり着いた富加町は移住支援にも積極的で、さまざまなサポートを得られたといいます。住む家についても、偶然にも中古の良い物件に出会うことができました。離農による空きハウスの活用や中古住宅の購入は、地域活性化の一步になりました。「適度に自然が豊かで、温かい人々に囲まれた生活は子育てにも最適です」。



堀田農園の紹介

堀田さん夫婦がイチゴを育てるハウスの1つは、富加町役場のすぐ近く。移住のサポートが手厚い富加町には、堀田さん夫婦以降も新規就農でやって来る人が増えています。収穫は早ければ12月から始まり、例年は5月ごろまで。選果とパック詰めをして、農地のすぐ近くにある道の駅「半布里の郷とみか」や近隣の産直市場などに出荷しています。

堀田農園 加茂郡富加町滝田

